

さらにいらん(違乱)あるへからず、くわんけいな
らひに二しん、くわんせうかついせ(追善)
む(退)たい(転)てんなく、と(弔)ふらい御(沙汰)さたあ
るへく候、た(但)、しくう月ハう御(坊)ハう
人としてし(祇候)ここのあひた、し(所)よ
ゑ(縁)んについていさ、か申(他坊)おくむ(計)ね
候といゑとも、いまハたはうにけい(計)く
わ(廻)いの上ハ、き(向後)やうこう御ハうの御は
か(計)らいとして、も(没後)つこのさ(マ)やん(以下)いけ御
さたあるへく候、よてまへたのもん(文書)そ
せ(先年)んねんくう月ハうにあ(預置)つけをき
候といへとも、この上ハ(直)ちきにめし
おかるへく候、ほん(具)そん(一)くのふしやう
てん(各別)なり、さらにかくへ(子孫)ちすへからす
候、もし又くわんけい(号)か(子孫)し(号)そん(号)とかうして
いらん(違乱)申(輩)とも(出)から(来)いてきたり候ハ、
ふけうのし(仁)ん(仁)たるへく候、よて(後)こ日の
ため(証文)にし(証文)ようもん(証文)のし(状)よう(状)くたんの
ことし、

嘉曆二年
かりやくにねん三月廿二日くわんけい(花押)
(一三二七)